

【解答例】

(I)

律令政府は墾田永年私財法を發布して、開墾した田地の私有を永年にわたって保障した。ただし、墾田は位階に応じて面積を制限され、国司の許可が必要であった。また、口分田と同じく輸租田であった。開墾地も含めた土地全体を政府が掌握するようになって律令国家による土地支配が強化された。一方で、貴族・大寺院などは、周辺農民や、重い税負担に苦しみ増加した浮浪者や逃亡者を雇って開墾を進め、墾田を買い集めて私有地を拡大し、初期荘園が成立した。(211字)

(II)

浄土教の流れをくむ法然は、浄土宗を開き念仏を唱えれば極楽往生できるという専修念仏だけが極楽往生の道であると説いた。日蓮は、法華経のみを釈迦の正しい教えとして選び、日蓮宗を開いて題目を唱えることで救われると説いた。禅宗では、道元がひたすら坐禅に徹する只管打坐を説いて坐禅こそが仏法であると説いた。いずれも既存の仏教のあり方を批判し、選択した一つの道によってのみ救われると説き、広く武士や庶民にも門戸を開いた。(203字)

(III)

琉球王国は、徳川家康の許可による薩摩藩からの侵攻を受け服属した。薩摩藩は黒砂糖などの産物の上納を強制し、石高制による農村支配も行った。また、薩摩藩の同行のもと琉球国王の代替わりごとに謝恩使を、将軍の代替わりごとに慶賀使を江戸幕府に派遣させた。琉球は薩摩藩の支配下で王国制を維持し、明・清の冊封を受けて朝貢貿易を継続して江戸幕府と明・清との二重外交状態にあったが、薩摩藩は琉球の通商交易権を掌握して朝貢貿易の産物も上納させた。(212字)

(IV)

下関条約締結後日本に割譲された台湾では、台湾総督府が設置され統治全般の権限を担った。民衆の抗日抵抗運動は武力制圧されたが、土地調査事業による土地制度の近代化や台湾銀行・台湾製糖会社の設立など産業振興が図られた。日中戦争開始後は皇民化政策が強化され、戦火拡大とともに戦争動員が行われた。日本の敗戦で統治も終了したが、中国で共産党が国民党との内戦に勝利して中華人民共和国が成立すると、国民党は台湾に逃れ中華民国を存続させた。(210字)